



令和7年度 地域ケア推進会議

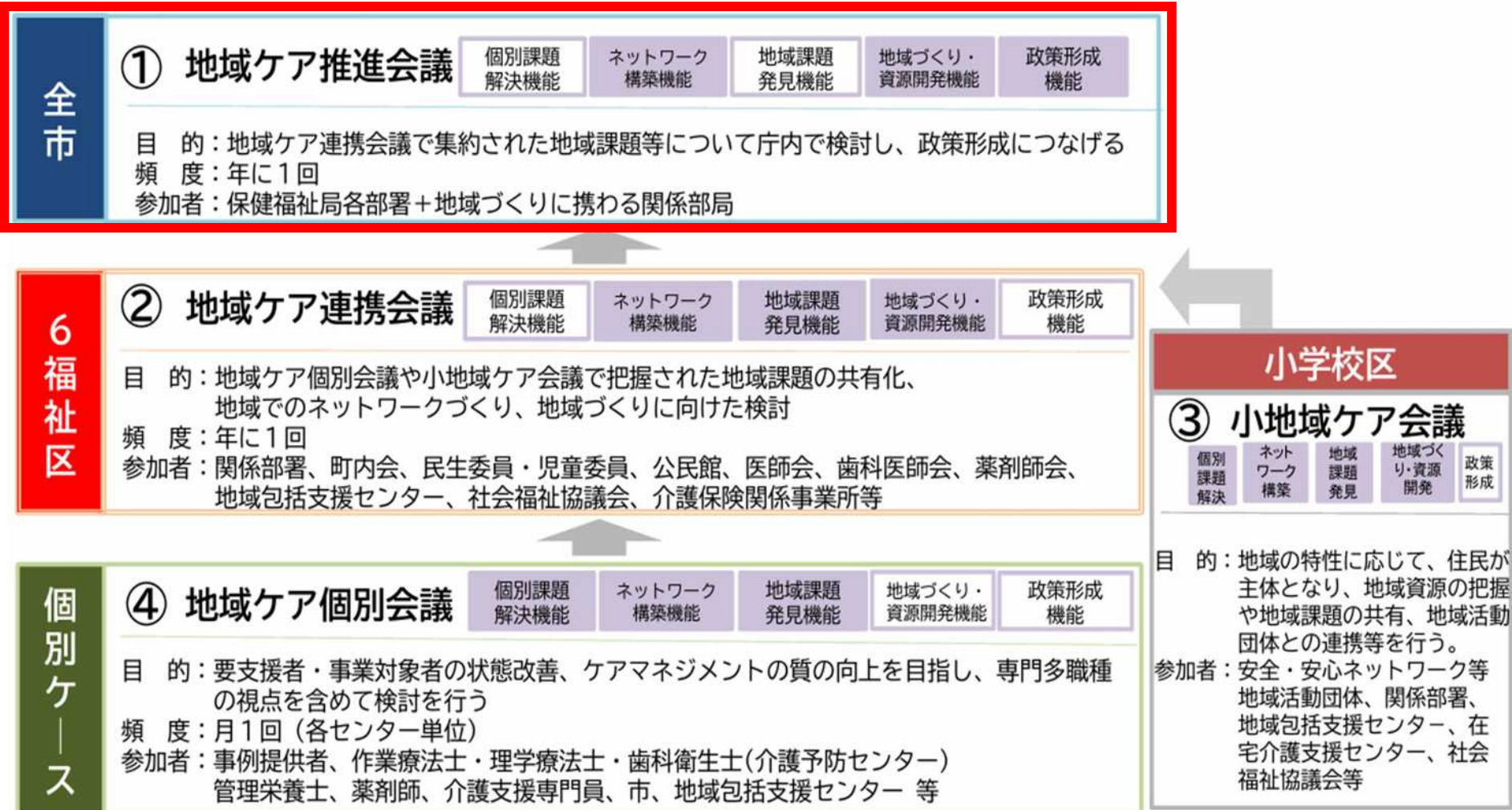
～ 高齢者を取りまく地域の現状と課題に対する
意見(見解)、今後の取組、改善に向けた方向性 ～

令和8年3月18日

岡山市 保健福祉局 高齢福祉部 地域包括ケア推進課

1. 地域ケア会議の位置づけについて

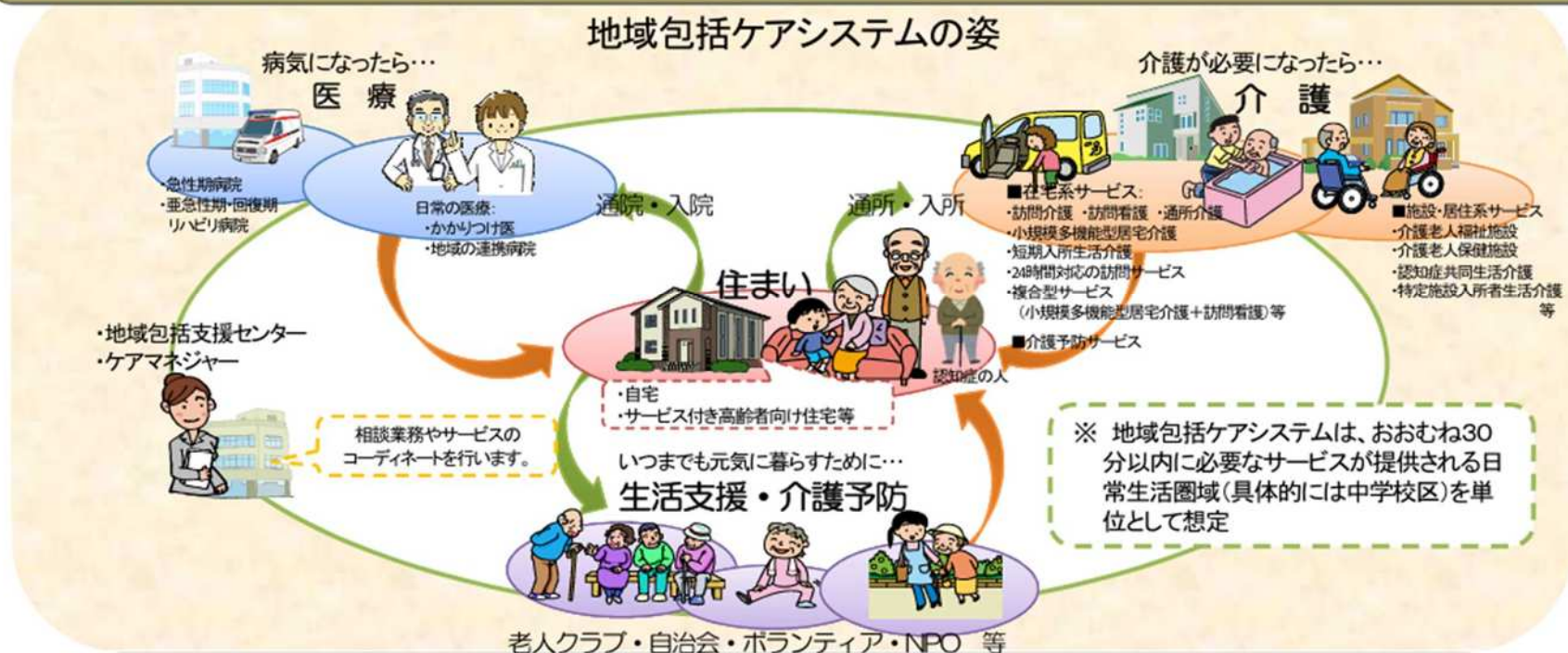
- 地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法のひとつ
- 岡山市では、地域ケア会議を4つの会議に分類



2. 地域包括ケアシステムの構築について

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。



3. 令和7年度の地域ケア会議

○岡山市では、地域ケア会議を4つの会議に分類

本日の会議

① 地域ケア推進会議

個別課題 解決機能	ネットワーク 構築機能	地域課題 発見機能	地域づくり・ 資源開発機能	政策形成 機能
--------------	----------------	--------------	------------------	------------

全市

目的：地域ケア連携会議で集約された地域課題等について庁内で検討し、政策形成につなげる
 頻度：年に1回
 参加者：保健福祉局各部署+地域づくりに携わる関係部局

② 地域ケア連携会議

個別課題 解決機能	ネットワーク 構築機能	地域課題 発見機能	地域づくり・ 資源開発機能	政策形成 機能
--------------	----------------	--------------	------------------	------------

6
福祉区

目的：地域ケア個別会議や小地域ケア会議で把握された地域課題の共有化、地域でのネットワークづくり、地域づくりに向けた検討
 頻度：年に1回
 参加者：関係部署、町内会、民生委員・児童委員、公民館、医師会、歯科医師会、薬剤師会、地域包括支援センター、社会福祉協議会、介護保険関係事業所等

④ 地域ケア個別会議

個別課題 解決機能	ネットワーク 構築機能	地域課題 発見機能	地域づくり・ 資源開発機能	政策形成 機能
--------------	----------------	--------------	------------------	------------

個別ケ
ース

目的：要支援者・事業対象者の状態改善、ケアマネジメントの質の向上を目指し、専門多職種
の視点を含めて検討を行う
 頻度：月1回（各センター単位）
 参加者：事例提供者、作業療法士・理学療法士・歯科衛生士（介護予防センター）
管理栄養士、薬剤師、介護支援専門員、市、地域包括支援センター等

小学校区

③ 小地域ケア会議

個別 課題 解決	ネット ワーク 構築	地域 課題 発見	地域づく り・資源 開発	政策 形成
----------------	------------------	----------------	--------------------	----------

目的：地域の特性に応じて、住民が
主体となり、地域資源の把握
や地域課題の共有、地域活動
団体との連携等を行う。
 参加者：安全・安心ネットワーク等
地域活動団体、関係部署、
地域包括支援センター、在
宅介護支援センター、社会
福祉協議会等

岡山市ホームページより抜粋

■開催数：6地域包括支援センター
各1回/年
※支え合い推進会議との合同開催
 ■開催時期：R7.11月～R8.1月
 ■テーマ
 ・新しい認知症観【北区中央】
 ・ご近助【北区北】
 ・日ごろからのつながり【中区】
 ・社会参加【南区南】
 ・移動支援【東区】【南区西】

■開催数：72回/年（R8.3月末予定）
 ■事例数：216件/年（R8.3月末予定）
 ※1回3件/1件30分間
 ■事例提供者：ケアマネジャー
 ・居宅介護支援事業所
 ・地域包括支援センター
 ■内容：・介護予防プランの検討
 ・地域課題の検討

■開催箇所：32箇所（R7.3月現在）
 【北区中央】1【北区北】11【中区】7
 【東区】4【南区西】7【南区南】2
 ■内容：個別ケースや地域課題の情報
共有、高齢者の見守り活動、あんしん
カプセルの更新、防災訓練など

課題

1. 高齢者への多様な移動支援が必要
2. 地域のつながりによる見守り体制と防災対策が必要
3. 人材の確保と後継者の育成が必要
4. 社会参加と人とのつながりによる自立支援が必要
5. 介護保険サービスの需給確認や改善が必要
6. 生活支援サービスの充実が必要
7. 複合的な課題を抱える世帯への支援が必要
(生活困窮者、8050問題、精神疾患を抱える同居家族など)
8. 安全な道路環境の確保が必要

No	区分	会議から見てきた高齢者を取りまく地域の現状と課題		現在の取組（例） ※R8.3.6現在
		「R7地域ケア個別会議」（ケアマネジャー・包括の声）	「R7地域ケア連携会議」（地域住民の声）	
1	移動支援	課題：高齢者への多様な移動支援が必要		<p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■生活交通（デマンド型乗合タクシー）の運営（9カ所） 北区（3：馬屋上・野谷・横井、牧山）※横井地区：R8.3～試験運行 東区（5：朝日、幸島、千種、角山、城東台・草ヶ部） 南区西（1：迫川） ■「おでかけ応援隊」の運営（4カ所） 北区（1：大井）、東区（2：城東台・開成）、南区西（1：妹尾） ■生活バス 北区（1：足守） ■コミュニティバス 北区（1：御津・建部） <p>社福・NPO等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■福祉有償運送（33事業所） <p>行政（施策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■運行経費の助成：生活交通・生活バス・コミュニティバス【交通政策課】 ■「おでかけ応援隊」活動支援：事務経費・アドバイザー派遣補助金の運用、地域住民への勉強会開催、立ち上げの伴走支援【地域包括ケア推進課】 ■公共交通運賃の助成：ハレカハーフ【交通政策課】 福祉タクシー【障害福祉課】 ■支線バス（FLA t）の導入（～R9.3：10方面／17支線予定）【交通政策課】 ■介護保険の訪問介護：通院等乗降介助【介護保険課】【事業者指導課】
		<p>現状 【中央・北・中・東・南・西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスや乗合タクシーがあるとよい。 ・「介護予防教室」「あっ晴れ！もも太郎体操」「サロン」への送迎サービスがあると、参加できる人は増える。 ・移動手段の不安が強く、回数券で安く乗れるバスがあるとよい。生活バスは本数が少ない。 ・歩行や移動が難しくなり、公共交通機関が使えなくなるケースが多くあり、移動手段の確保に苦慮している。障害のある人が日常的に使用できる手段があるとよい。 ・付き添いの支援があれば外出や行動につながる。 ・買い物の能力はあるが、運転免許証を返納したことで、買い物での外出機会が減った。自立維持の為に交通費が無料又は安価な支援があるとよい。 ・「タクシーを呼ぶには距離が近い、歩くには遠い」場合の移動に困る。 ・移動手段がタクシーしかない高齢者が多く、家計を圧迫しているとの訴えを多く聞く。灘崎地区全体を巡回する交通機関が欲しい。 ・マンションでセニアカーの駐車スペースの許可を得るのに時間がかかる。今後マンションの住民も高齢化する為、セニアカーを置けるスペースがあると良い。 ・東区は全体的に介護タクシーの予約が取りにくい。人工透析など曜日が固定している場合でも取りにくい。 ・介護タクシーが物価高騰で高い。 ・福祉有償運送の事業所が少ない。 ・タクシー会社でも場所によっては依頼を断られることもある。 ・タクシーはお金がかかる為、受診控えが増えている。 ・FLA t（公設民営の支線バス）が新しくできたが、バス停まで距離がある。 	<p>現状 【北・東・南・西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許証返納後、通院・買い物など外出に困る高齢者が増加。 ・運転免許証返納後の保証がないと返納できない。 ・身体機能の低下からバス停やゴミ捨てに行けない高齢者も多い。 ・通いの場等への参加を希望しても交通手段がなく、参加できない高齢者がいる。 ・プンタク（迫川地区生活交通）：使えるエリアもあるが、利用している人はいない。本当は乗り合わせて利用してほしい。 ・バスやタクシーの割引制度はあっても公共交通を使えない。 ・ゴミステーションが少ない。 ・地域で移動手段を支えることは負担が大きい。 ・地域で移動手段を支えるには人材（運転手＋コーディネーター）と資金が必要だが、難しさがある。 ・FLA t（公設民営の支線バス）：バス停が分かりにくい。妹尾駅で降りて、そこからJRに乗って岡山駅へ行くという人もいた。路線を増やして欲しい。山田・妹尾崎のあたりを通って欲しい。あまり人が乗っていないようだ。 	

No	区分	会議から見てきた高齢者を取りまく地域の現状と課題		現在の取組（例） ※R8.3.6現在
		「R7地域ケア個別会議」（ケアマネジャー・包括の声）	「R7地域ケア連携会議」（地域住民の声）	
2	見守り・防災対策	課題：地域のつながりによる見守り体制と防災対策が必要		<p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自主防災組織活動：災害用備品・備蓄の管理、避難訓練等 ■一人暮らし・高齢世帯の把握・見守り <ul style="list-style-type: none"> 町内会・第2層協議体等による日常の見守り活動 シルバー台帳を活用した民生委員による訪問 福祉委員制度での見守り活動（一部の地域） ■「あんしんカプセルおかやま」の配布・更新：安全・安心ネットワーク <p>介護保険施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■福祉避難所の協定締結（北区：29、中区：14、東区15、南区19） ■介護保険施設（小多機・グループホーム等）による地域貢献活動 <p>会議や行事を通じて、町内会と災害時の対応についても検討。</p> <p>行政（施策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自主防災組織への助成制度 【危機管理室】 <ul style="list-style-type: none"> 組織結成時・活動時、地域防災マップ作成時の助成金交付。 活動中の事故時の補償。 ■要配慮者（災害時要援護者）の避難支援体制づくり【危機管理室】 <ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者名簿の整理、個別避難計画作成促進の為の地域向けの説明会、福祉事業者への計画作成委託の実施等。 ■防災に関する講座の開催 【公民館振興室】 ■フレイル予防×防災出前講座の開催【地域包括ケア推進課】 ■高齢者を見守り訪問事業 【地域包括ケア推進課】 <ul style="list-style-type: none"> 民生委員へシルバー台帳（65歳以上高齢者）の情報提供 ■チームオレンジ【高齢者福祉課】 ■認知症サポーター養成講座【高齢者福祉課】 ■高齢者・子ども見守りネットワーク事業【高齢者福祉課】 ■認知症高齢者見守り事業 【高齢者福祉課】 <ul style="list-style-type: none"> 行方不明さがしてメール事業 ■緊急通報システム事業【高齢者福祉課】 ■一人暮らし高齢者等配食サービス事業 【高齢者福祉課】 <ul style="list-style-type: none"> 高齢者等の食の確保と安否確認を行う。 ■安全・安心見守り・声かけ推進事業 【市民協働企画総務課】 <ul style="list-style-type: none"> 「あんしんカプセルおかやま」の安全・安心ネットワークへの配布 ■生活支援体制整備事業【地域包括ケア推進課】
		<p>現状 【中央・北・中・東】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者名簿に登録後、どういった避難経路で避難するか、誰がサポートするか等の話し合いができていない地域が多い。 ・老老介護に対し、介護サービスの介入だけでなく、近所の助けや民生委員との連携が必要。 ・マンションやアパートで暮らす人が多く、住民同士のつながりが希薄。 ・身寄りのない一人暮らしの高齢者の見守り支援体制をサービス以外でどのように構築していくかが課題。 	<p>現状 【中央・北・中・南】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の活動に若い世代の参加が少ない。高齢者が担っている現状。若い世代は仕事や子どものことで地域の行事に出て行きにくい。 ・地域活動への参加率増加に向けた情報発信強化が必要（←地域だけでは難しい） ・個人情報保護の制約がある為、情報共有が難しく見守りが難しい。 ・近隣の日常的な見守りから、時には専門知識を持った人への相談も必要。 	
3	人材不足	課題：人材の確保と後継者の育成が必要		<p>行政（施策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域活動の担い手づくり <ul style="list-style-type: none"> ・「地域応援人づくり講座」開催【市民協働企画総務課】 ・生活・介護支援サポーター養成「支えるみんなの活動講座」開催【地域包括ケア推進課】 ・「介護予防サポーター養成講座」開催【地域包括ケア推進課】 ■運転手養成事業者支援：公共交通運転手養成事業補助金【交通政策課】
		<p>現状 【東】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの参加者も年々減少、新しい参加者や担い手がない。 ・乗り合いタクシーはあるが、ドライバーの高齢化が進み、後継者が不足。 	<p>現状 【北・中・南】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守り体制を作る必要を感じていても、地域に担い手がない。 ・移動支援に運転手の人材がない。 ・「地域での支え合い」と言われるが、力を貸してくれる人が見つけにくい。 	

No	区分	会議から見てきた高齢者を取りまく地域の現状と課題		現在の取組（例） ※R8.3.6現在
		「R7地域ケア個別会議」（ケアマネジャー・包括の声）	「R7地域ケア連携会議」（地域住民の声）	
4	社会参加	課題：社会参加と人とのつながりによる自立支援が必要		<p>地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ■介護予防・趣味活動・集いの場づくり 「ふれあいサロン」「あっ晴れ！もも太郎体操」「老人クラブ」「おかやまオレンジカフェ（認知症カフェ）」「チームオレンジ」「子ども食堂」開催 <p>社福・医療法人等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「おかやまオレンジカフェ（認知症カフェ）」開催 ■認知症ピアサポート活動支援事業 <p>行政（施策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■老人クラブの活動支援：補助金【高齢者福祉課】 ■認知症カフェ運営支援事業、本人ミーティング推進事業、認知症ピアサポート活動支援事業【高齢者福祉課】 ■介護予防事業の推進：「介護予防教室」開催（37カ所）、「あっ晴れ！もも太郎体操」の運営支援【地域包括ケア推進課】 ■公民館のクラブ講座【公民館振興室】 ■就労等による社会参加の促進：生涯活躍就労支援事業、シルバー人材センター【地域包括ケア推進課】 ■難聴高齢者のための補聴器等の利用による社会参加推進【高齢者福祉課】 ■健康市民おかやま21、愛育委員会・栄養改善協議会（栄養委員）との連携、栄養委員による低栄養予防アドバイス事業【健康づくり課】
		<p>現状【中央・北・中・東】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性が集える場が少ない。男性参加者が参加しやすいような作業型の居場所活動（農園・工房等）があるとよい。 ・誰でも参加可能なサロンがあるとよい。 ・傾聴ボランティアや趣味活動を助けるボランティアがあるとよい。 	<p>現状【中央・北・中・南】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いて行ける場所に通いの場（サロン・あっ晴れ・公民館講座）がない。 ・こども食堂は食材の提供者に依存せざるおえず、資金面での不安定さがある。 ・サロン活動に参加する人はいいが、参加しない人をどうするか。 ・認知症になっても地域での活躍の場（役割・生きがい）や人との繋がりが必要。 ・人との付き合いが希薄となり孤立し、支援に繋がりにくい。 	
5	介護保険サービス	課題：介護保険サービスの需給確認や改善が必要		<p>行政（施策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■在宅系サービスの適正な提供【介護保険課】【事業者指導課】
		<p>現状【中央・北・東・南】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー事業所が不足。自費ヘルパーもエリア外で来てもらえない。また、土日のヘルパーは介護保険も自費も不足している。 ・自宅に駐車場がない地区は、訪問サービス利用時に駐車場確保の問題があり、提供可能な事業所が限定される傾向にある。ケアマネジャーも同様の悩みあり。 ・要支援者で入浴支援の必要性があっても、通所サービスにて入浴支援が受けられない場合が多い現状がある。 ・宮浦地区（南区）は介護保険サービスにおいては選択肢が少ない地域。居住地の都合で望む支援が受けられない可能性が高い。支援の手が届く方法はないか。 ・セニアカーは要介護2以上が対象だが、要支援の方にこそ必要だと常々感じている。例外給付ではなく利用できれば交通の解決の一助となる。 		

No	区分	会議から見てきた高齢者を取りまく地域の現状と課題		現在の取組（例） ※R8.3.6現在
		「R7地域ケア個別会議」（ケアマネジャー・包括の声）	「R7地域ケア連携会議」（地域住民の声）	
6	生活支援サービス	<p>課題：生活支援サービスの充実が必要</p> <p>現状 【中央・北・中・東・南】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灯油缶を運んだり給油を手伝うボランティアがあるとよい。 ・買い物やゴミ出しが困難な高齢者（介護保険未申請）への支援があるとよい。 ・「ふれあい収集（要介護対象）」のように、要支援の方に対しても近所の方等のボランティアがあると良い。 ・「ふれあい収集」の利用対象を要支援認定者にも広げて欲しい。 ・一人暮らしの買い物支援（介護保険外の購入品）や家事代行（介護保険外）サービスが充実するとよい。 ・配食サービスの事業所が少ない。 ・岡山市の配食サービスに夕食があるとよい（食の確保と見守りの強化）。 		<p>地域</p> <p>■生活支援活動（31カ所） 買い物代行、ゴミ出し、家事支援、庭の草取り、軽作業、移動支援、話し相手、見守り等</p> <p>行政（施策）</p> <p>■介護保険事業：訪問介護、生活支援訪問サービス、小規模多機能型居宅介護【介護保険課】【事業者指導課】</p> <p>■緊急通報システム事業【高齢者福祉課】</p> <p>■一人暮らし高齢者等給食サービス【高齢者福祉課】</p> <p>■日常生活用具給付事業【高齢者福祉課】</p>
7	複合課題	<p>課題：複合的な課題を抱える世帯への支援が必要（生活困窮者、8050問題、精神疾患を抱える同居家族など）</p> <p>現状 【北・西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同居世帯が多く、独居率は低い。同居世帯の中には8050問題に近い状況を抱えている世帯も少なくない。 ・身寄りのない低所得の高齢者で保証人が必要になった場合の対応に困っている。 		<p>行政（施策）</p> <p>■多機関協働事業：複合課題ケース検討会開催等【保健福祉企画総務課】</p> <p>■生活困窮者自立支援事業【生活保護・自立支援課】</p> <p>■高齢者虐待防止事業【地域包括ケア推進課】</p> <p>■地域包括支援センター運営事業【地域包括ケア推進課】</p>
8	安全な道路環境	<p>課題：安全な道路環境の確保が必要</p> <p>現状 【北・中・東・西】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用水路やため池に落ちないように、柵やガードレール等環境が整備されるとよい。 ・道路の舗装状態が悪く、セニアカーや電動車いすの利用が難しい。 ・道が細く、緊急車両（消防車・救急車）が入れない。駐車スペースもない。 		<p>行政（施策）</p> <p>■環状道路の整備、都心部における人優先の道路空間の整備、安全・安心な歩行空間の整備、道路の防災対策、道路の維持管理、生活道路の整備・修繕等【道路計画課】</p> <p>■用水路等転落防止対策事業【道路港湾管理課】【農村整備課】</p>